

まじゅん

編集責任者 西銘 隆 (田崎病院)
編集者 諸見里 枝利子 (平安病院)
送信者 兼浜 克弥 (なんくる)
E-Mail oki-psw@nirai.ne.jp

沖縄県精神保健福祉士協会 85号

～お詫び～

このたびはPSW通信「まじゅん」の発行が大変遅くなってしまい誠に申し訳ありません。会員の皆様には多大なるご迷惑をおかけしてしまい、心より深くお詫び申し上げます。提出いただいた研修報告は早めにお届けするよう努めたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

編集責任者 西銘隆
編集者 諸見里枝利子

2012年3月定例会報告

テーマ：**権利擁護委員 福岡視察報告会**

日時：平成24年3月24日（土）10:00～12:00

場所：沖縄県総合福祉センター東棟 501号

参加者：33名

報告者：嬉野が丘サマリヤ人病院 喜屋武 のぞみ

【概要】

権利擁護委員長 田中さん（博愛病院）の挨拶の後、成年後見制度のDVD上映。実際に後見活動を行っている3名の会員による報告。北九州市後見センター「みると」・福岡県社会福祉士の視察報告。

【感想】

実際に後見人として活動している権利擁護委員の報告を拝聴し、制度についてさらに理解を深められたと感じています。日々の業務と並行し、後見活動も行っている委員のパワーに尊敬の念を抱くと同時に、当事者の財産と権利を守り、支援する精神保健福祉士の役割について、改めて考えさせられました。定例会の最後には、この春福岡に異動なさる那覇保護観察所の比嘉寛さんへ、沖縄県PSW協会での活動に尽力いただいたことに対する感謝の意を込めて花束贈呈を行いました。いつか定例会で、福岡での仕事について話していただけたらなあと思います。

2012年4月定例会報告

テーマ：**「地域移行・地域定着支援について」～そこに必要なPSWのスキルとは？～**

講師：**安村 勤 氏（地域生活支援センターウェブ）**



日時：平成24年4月28日（土）

場所：沖縄県総合福祉センター 東棟501教室

参加者：43名

報告者：南城市地域活動支援センター野の花 大城 美波

【概要】

地域移行支援・地域定着支援の法体系、事業活用イメージ、社会資源開発について、エンパワメントについて

【感想】

今回の定例会に参加した動機は地域移行・定着支援がテーマだったからです。どのようにこの制度を活用していけばよいのかとても不安なまま年度が替わりスタートさせなければならないということになり勉強したいとの気持ちで参加しました。制度の内容はもちろん勉強になりましたが、実践者にしかわからない具体的な支援を知ることができ、今回参加してとても良かったと感じました。例えば、上がった課題は部会を通して考えていくことや本人が退院に前向きになるのには時間がかかるなど細かい支援方法や事例を学ぶことができたと思います。また、講演を聴きとても印象に残ったことは「制度は変わっても支援のミッションは変わらない。」という講師の想いでした。制度が変わりあたふたしている今の自分が制度に振り回されているということに改めて気づき少し恥ずかしくなりました。まだまだ混乱している状態ではありますが、今回の定例会で学んだことを日々の業務に活かし今後の支援に役立てていきたいと思っています。

2012年度 社員総会基調講演会報告

基調講演： **沖縄県PSWの歴史 ～PSWとして歩んできた道をふりかえって～**

講師： **安里 千代子氏**



日時：平成24年5月19日（土）

場所：沖縄県総合福祉センター

内容：一般社団法人沖縄県精神保健福祉士協会社員総会

報告者：ノーブルメディカルセンター 山城 愛子

（※現在 もとぶ記念病院へ病院名が変更されています）

【感想】

平成24年5月19日、沖縄県総合福祉センターで、一般社団法人沖縄県精神保健福祉士協会社員総会が開催されました。講師に沖縄県PSW第一号であり、県協会初代会長の安里千代子氏を招いて、沖縄県PSWの歴史～PSWとして歩んできた道をふりかえって～という演題で基調講演をして頂きました。沖縄県ソーシャルワーカーの夜明けは、アメリカ軍（野戦病院）によって保護され始まった事実に驚きました。沖縄PSWの道を築き戦争体験をしている安里氏の言葉は、沖縄でPSWとして働く上で、沖縄PSWの歴史＝沖縄の歴史（沖縄の戦後～本土復帰～現在）を同時に学ぶ事に繋がるんだなと、PSWとしても沖縄県民としてもすごく貴重な話でした。

安里氏の話聞くのも初めてで、一般社団法人として初めての社員総会で・・・また、理事の人数も増え、新たに三役に副会長として糸満晴明病院の山城氏が選出されたことは、同じ女性としても気持ちが引き締まる思いがする定例会でした。

2012年6月定例会報告

テーマ： **精神障害者をめぐる法律問題**

講師： **若松 恭子弁護士（ふくぎ法律事務所）**

日時：平成24年6月9日（土）10:00～12:00

場所：沖縄県総合福祉センター東棟501号室

参加者：30名

報告者：国立病院機構独立行政法人 琉球病院 福原 飛鳥



【概要】

（1）講義内容

- ・精神保健福祉法における精神障害者の定義
- ・障害を有する人々が侵害されやすい憲法上の人権
- ・障害者基本法
- ・民法
- ・刑法
- ・成年後見人制度の利用
- ・精神保健福祉法による入院

(2) 質疑応答

【感想】

クライアントに何か問題が起こった際、その問題に対し法的問題として捉えたことはあったか。若松弁護士講義中、頭の中でこの言葉が巡りました。医療保護入院、経済的虐待の問題、拘束や通信の自由等・・・PSWがクライアントの人権について法的問題として捉えなければいけない場面は多くあります。それを自分の知識不足のため、見逃していることはないか。他職員との軋轢を避けるがため、目を伏せていることはないか。私達PSWは常に自問自答しながら業務に携わる責任があります。そのためには、若松弁護士からもお話しがあったように、一定の法律知識、クライアントを法の専門家へつなげる際に制度や法律について自信を持って説明できる力が必要となります。

そして、精神保健福祉士法では以下のように述べられています。「精神保健福祉士は、その担当する者が個人の尊厳を保持し、自立した生活を営むことができるよう、常にその者の立場に立って、誠実にその業務を行わなければならない。」「精神保健福祉士は、精神保健及び精神障害者の福祉を取り巻く環境の変化による業務の内容の変化に適応するため、相談援助に関する知識及び技能の向上に努めなければならない。」

精神保健福祉士法にもあるように私達PSWはクライアントの尊厳の為、法律知識を身に付け、PSWとして常時自己点検を行い、専門職としての責務を果たしていく責任があると改めて考えさせられました。今回学んだことを実践として生かしていきたいと思います。若松先生、難しい内容を分かり易く講義くださって大変勉強になりました。ありがとうございました。

2012年7月定例会報告

テーマ：**精神保健福祉士の専門性について考える**

講師：**田村 綾子氏**

日時：平成24年7月28日（土曜日）13：30～17：30

場所：沖縄国際大学

参加者：約70人

報告者：田崎病院相談室 備瀬 恭子（平成24年7月28日時点）

【概要】

前半：聖学院大学人間福祉学科 田村綾子先生の講義

後半：シンポジウム

座長：山城 涼子氏（糸満晴明病院）

シンポジスト：①諸留 将人氏（株式会社アソシア社会大学）

②兼浜 克弥氏（那覇市地域生活支援センターなんくる）

③崎間 仁氏（具志川東中学校）



【感想】

絶対、研修会で何かしゃべって帰ろうと思って、参加した今回。だって講師の先生も、シンポジストの皆さんも、名前をみただけでエネルギーがもらえそうな方ばかり。思っていた通り、ワクワクするような時間になりました。中でも「僕は、ブルースリーが好きなんです。」と言いだめた兼浜さん。なにになに？いつもななめ上ぐらいの角度から言葉をチョイスしてくるので、彼の発言が楽しくてしょうがない私。その続きは、「ブルースリーがあこがれの人で、あこがれの人のようにになりたいと思っています。そんなあこがれの存在になりたい」（途中省略しています）と。これは、座長の山城涼子さんが「なぜ自分自身の幸せを大事にするのか」というような問いかけに対するものだったと思います。それに対して自分自身が幸せに満ちあふれ、他の誰かのあこがれの存在になることが、その人の元気の源になるという事でした。

「精神保健福祉士の専門性について考える」というテーマは、とてもとても難しく、ベテランにならない

とわからないというようなイメージでしたし、「プロフェッショナル」について考えると、自分自身と向き合えないといけないので、つらい作業のようにとらえていました。そのつらい作業が苦手ではないですが、改めてみんなで「専門性」について考える、聞く、しゃべるといった研修は元気になる材料がいっぱい詰まっていた。精神保健福祉士の専門性を私なりに考えました。やっぱり心の自己管理を自分でできちんとできる、そして自分自身の、自分以外の人たちの幸せと一緒に追求できる視点や技術、センスを持った存在が「精神保健福祉士」なのだと思えました。「福祉士」は「幸せのプロ」だと思います。力強く、そしてしなやかな私でありたいと感じた研修になりました。最後に・・・いつもいつも思いますが、研修のために多くの時間と労力を費やして下さっている委員の皆様。私たちに幸せをわけて頂いてありがとうございます。

報告者：ノースブルメディカルセンター 川添 貴大

【感想】

今回は私自身にとって、本当に意味のあるものでした。今年、専門学校を卒業して、4月からノースブルで勤務し、この3ヶ月間、毎日の業務をしていく中で、「専門性や自信とは何だろうか？」と日々考えていました。そこに今回の田村綾子先生のお話を聞いて、真栄平会長が「田村先生の話は、PSWとしての魂を揺さぶるものがある」とおっしゃったように、私自身とても刺激を受けましたし、今回の話を聞いたことに大変感謝しています。

「専門性」とはPSWとして考え続けなければいけないことだと思いましたが、考え続けるからこそ、発見があり、成長していくのだと感じました。また、日々を振り返り、自問自答を繰り返すことで、「自分ならやれる」という風に、少しずつでも自分に自信を植え付けていくのだとも感じました。

シンポジウムでも、3人のシンポジストにお話ししていただき、専門職として何ができるのか？と考えさせられたと同時に、3人ともそれぞれの仕事を本当に楽しそうに情熱を持ってしていると見ていて思いました。これも専門性を考える上での大事なことなのかもしれません。皆で共有するものや、それぞれが考える「専門性」があると思います。私自身も、専門性を見出して考えていき、自信を持ってやっていける様にして行こうと強く感じました。

2012年8月定例会報告

テーマ：**事例検討会 「金銭管理に問題がある患者の支援」**

事例提供者 比嘉 弥生氏(平安病院)

日時：平成24年8月18日(土)

場所：いずみ病院 デイケアセンター ・施設見学 琉球薬草苑

報告者：いずみ病院 根路銘 郁美

【感想】

8月18日に行われた定例会は事例検討会と琉球薬草苑の施設見学でした。事例検討会の内容は、「金銭管理に問題がある患者の支援」というテーマで6～8名の5グループに分かれ、皆で意見を出し合うというもの。今年PSW協会に入会し、定例会自体初参加の自分にとって「どうしよう・・・緊張する。」という気持ちでいっぱいでした。同じグループになった方々も先輩方ばかりで、さらに緊張！！そんな自分がグループ内の進行役を担う事になりガチガチになってしまい、最初は話が前に進まなかった・・・。しかし時間が経つにつれ、優しい先輩方のリードもあり様々な意見を出し合う事ができました。当事者の抱えている問題を各々出し合い、この方がどういう人なのかを家族歴や性格、思考、生活能力を踏まえてさらに問題点を掘り下げる。そこからどのような支援方法が考えられるのか意見し合う。他のグループの発表も含めてですが、みなさん短い時間の中で限られた情報を元に、多様な意見が出てくることには驚かされるばかりでした。今回の事例検討を通じてケースワーカーには、表面化している問題に対応するだけでなく、その奥に隠れている問題をくみ取る、考え方の柔軟さ視野の広さ、適切な支援を提供できるだけの知

識が必要なのだと改めて感じさせられました。最初は不安でいっぱいでしたが時間はあっという間に過ぎ、振り返れば充実した時間を過ごす事ができました。事例検討はまだまだ苦手意識が拭えませんが、恥ずかしさは二の次！！自分のスキルアップの為にも積極的に参加していきたいと思います。

2012年9月定例会報告

テーマ：**相談援助の心構え その2**

講師：**田崎病院 相談室 西銘 隆氏**

日時：平成24年9月22日（土）

場所：沖縄県総合福祉センター

報告者：南山病院 大城 健太



【概要】

相談援助の基本的な姿勢と必要スキルを確認し、課題を設定した演習を行った。

【感想】

今回、協会に入会し、初めて定例会に参加させて頂きました。PSWとしてこの仕事に携わるようになりまだ半年も経たず、普段は認知症デイケア勤務の私にとって、講義や演習の全てが新鮮でためになるものばかりでした。定例会の内容とは直接関係ありませんが、講師をして下さった西銘さんのレジュメの中に、「私の好きな言葉」として、「知識でもなく、経験でもなく、姿勢」という言葉があり、私もこの言葉にとっても共感しました。

新人なので、当然知識も経験もなく、あっても「姿勢」だけしかありませんが、年月を経て知識と経験を身につけても、やはり、真摯な「姿勢」をもった人間でありたいと思いました。定例会には積極的に参加していきたいと思っていますので、これからもどうぞ宜しくお願いします

報告者：博愛病院 精神科デイケア 平良 博之

【感想】

今回のテーマが「相談支援の心構え」ということで、恐れ多くもぜひ参加したいと思いを挙げました。それには理由があり、相談援助の姿勢を改めて見直したいと感じていました。新たな技術や視点を注入したかったのです。それなら直属の先輩方にアドバイスを上げばということですが、普段では見られない同輩方の姿勢を、この機会にじっくり観察したいと思いました。それだけに演習で一緒した、なんくる・兼浜さんの柔軟な傾聴姿勢、勝連病院・宮城さんの安心感を与える語り口、玉木病院・城間さんの劇団ばりのリアルな演技？は大いに感服しました。自分に欠けているかなと思っていたものが、こんな間近で勉強できたのは良い経験に他ありません。早速取り入れようと思いました。

さらに、インテークはクライアントに受容の姿勢を伝えるとともに「信頼」を与える場であることを改めて気づかされました。希望の芽を見いだす関係づくり、次につなげる面談ができるように、これからも研鑽していきたいです。

～会員の皆様へ 会費納入のお願い～

☆ 会費口座引き落としの手続きはお済みでしょうか？

まだの方はお早めに手続きをお願いします。

★お便り大募集！！★

会員の皆さまからの情報・報告・投稿・作品(詩やエッセイなど何でも!)をお待ちしています。
また、当協会へのご意見・ご要望などお寄せ下さい。送り先はPSW協会メールへお願いします。